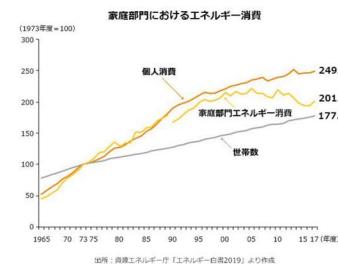
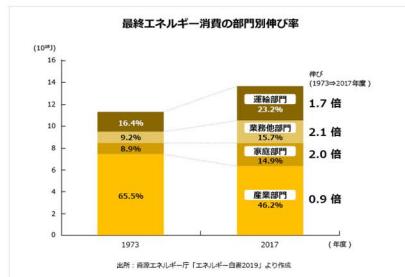


家庭での取り組み

1

家庭エネルギー消費の実態

家庭部門のエネルギー消費量は、1973年度を100とすると、2017年度は201.5と約2倍に増加しています。生活の利便性・快適性を追求するライフスタイルの変化や、世帯数の増加など社会構造変化の影響が背景にあります。東日本大震災以降は節電などの省エネ意識の高まりにより低下傾向にありますが、一層の省エネを進めることが必要です。



家庭のエネルギー源別消費

家庭のエネルギー消費をエネルギー源別に見てみます。シェアの大きいのは電気で約半分を占めています。それに都市ガス、灯油、LPGガスと続いています。1965年度と比較して、電気のシェアが大幅に増加していますが、これは、家電機器の普及や大型化、多様化によるものに加え、近年のオール電化住宅の普及も要因のひとつとして考えられています。一方、1965年度に1／3以上を占めていた石炭は、灯油やガスで代替され、現在のシェアはほぼ0%となっています。



節電の3つの方法



減らす

消費電力を減らすことです。節電と省エネの両方に効果があります。

【例】

- ・電化製品の無駄な使用を控える。
- ・使用していない電化製品のプラグはコンセントから抜く。 等



ずらす

電気を使う時間帯をずらすことです。節電にはなりますが省エネにはなりません。

【例】

- ・電気使用が時間帯を避ける。
- ・電化製品の同時使用を避ける。 等



切替える

他の方法に切り替えることです。省エネになるかどうかは場合によります。

【例】

- ・省エネ型製品へ買い替える。
- ・電気を使わない、または消費電力の少ない機器に替える。 等

夏の節電のポイント

夏の節電が一番必要な時間帯である平日の14時頃に、家庭で最も多く電気を消費しているのがエアコンで、約半分を占めています。

夏の節電において最も重要なことは、エアコンを上手に使うことと言えます。



冬の節電のポイント

冬の節電が一番必要な時間帯は夕方から夜にかけてです。暖房にエアコンを使用する家庭ではエアコンが、使用していない家庭では照明が最も多く電気を消費しています。これらの機器を上手に使うことが冬の節電のポイントです。



出所：経済産業省資源エネルギー庁ホームページより
中央区立環境情報センター